

## 5-4 こころの診療部

### [原著論文]

1. Fujiwara T, Okuyama M, Kasahara M, Nakamura A: Characteristics of hospital-based Munchausen Syndrome by Proxy in Japan. *Child Abuse & Neglect* 2008 ; 32-4 : 503-509
2. Fujiwara T, Okuyama M, Tsui H, Koenen KC: Perinatal factors associated with infant maltreatment. *Clinical Medicine Pediatrics* 2008 ; 1 : 29-36
3. Fujiwara T, Okuyama M, Kasahara M, Nakamura A: Differences of Munchausen Syndrome by Proxy by Predominant Symptoms in Japan. *Pediatrics International* 2008 ; 50 : 537-540
4. Ikuta N: Pathological Narcissism from the point of view of Drive and Identification Theories. *Japanese Journal of Psychoanalytical Psychiatry* vol.3, 2008 ; 28-37

### [総説]

1. 奥山真紀子: 虐待を疑った場合の家族への対応. *小児科診療* 2008 ; 71 (5) : 835-839
2. 奥山真紀子: 虐待が疑われる子どもに対するケア. *小児看護* 2008 ; 31 (13) : 1756-1760
3. 奥山真紀子: 児童虐待. *児童・青年期の精神障害治療ガイドライン 精神科治療学* 2008 ; 23 (増刊号) : 276-280
4. 奥山真紀子: 虐待やDV ケースとかかわる時に知っておくべき医療費等に関する制度. *小児内科* 2008 ; 40 (7) : 1198-1200
5. 奥山真紀子: 子どものこころの診療体制の整備一国での取り組み. *小児科診療* 2008 ; 71 (11) : 1907-1908
6. 實方由佳, 笠原麻里, 奥山真紀子: Munchausen Syndrome by Proxy の症例における「接近困難性」に対する一考察. *子どもの虐待とネグレクト* 2008 ; 10 (1) : 75-82
7. 笠原麻里: 学童期・思春期年代の子どもの自殺について. *犯罪学雑誌* 2008 ; 74 : 79-84
8. 笠原麻里: 不登校・家庭内暴力・非行. *こころの科学* 2008 ; 74 : 79-84
9. 山添(池下)花恵, 河合隆史, 宮尾益知: 視覚的認知を利用した漢字書字訓練手法の開発ー学習障害児への適用ー. *日本教育工学会論文誌, 日本教育工学会*, 2008 ; 32 : 13-16
10. 山添(池下)花恵, 三家礼子, 河合隆史, 佐藤正, 山形仁, 山崎隆, 宮尾益知: 発達性読み書き障害児における立体視を用いた平仮名識字学習の効果. *日本教育工学会論文誌, 日本教育工学会*, 2009 ; 32 (4) : 417-424

### [著書]

1. 奥山真紀子: 子ども虐待の発見と対応ー医療現場から. *子ども虐待新版*, 有斐閣, 2008 ; 159-175
2. 奥山真紀子: 行動の問題、うつ、自殺. *思春期医学臨床テキスト*, 診断と治療社, 2008 ; 151-157

3. 奥山眞紀子：浅井春夫(編)，新版 子ども虐待防止マニュアル，ひとなる書房，2008；16-29 52-70
4. 奥山眞紀子：虐待を受けた子ども．ケーススタディ こどものこころ，日本医事新報社，2008；17-20
5. 奥山眞紀子：精神科救急 身体的虐待．小児科臨床ピクシス 小児救急医療，中山書店，2008；140-142
6. 奥山眞紀子：精神科救急 ネグレクト．小児科臨床ピクシス 小児救急医療，中山書店，2008；143-145
7. 奥山眞紀子：A. 被虐待児の治療方法と治療構造．子どもの心の診療シリーズ 5 子ども虐待と関連する精神障害，中山書店，2008；179-198
8. 奥山眞紀子：アタッチメントとトラウマ．庄司順一，久保田まり(編著)，アタッチメント 子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐる，明石書店，2008；143-176
9. 奥山眞紀子：アタッチメント対象の喪失．庄司順一，久保田まり(編著)，アタッチメント 子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐる，明石書店，2008；177-193
10. 奥山眞紀子：乳幼児の畳の上での転倒で急性硬膜下血腫は起こりうるか？．小児科研修の素朴な疑問に答えます，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2008；55-56
11. 奥山眞紀子：子どもを守る－大人をしんじられる子どもになってもらうために．乾美紀，中村安秀(編)，子どもにやさしい学校，ミネルヴァ書房，2009；40-41
12. 奥山眞紀子：自殺企図．五十嵐隆(編)，目でみる小児救急，文光堂，2009；204-205
13. 奥山眞紀子，前田洋佐：不登校．ナースのための小児の病態生理辞典，へるす出版，2009；347-352
14. 奥山眞紀子：対応できなかった医療ネグレクト．永井良三(監修)，小児科研修ノート，診断と治療社，2009；211
15. 笠原麻里：思春期の精神療法．上島国利，樋口輝彦，野村総一郎，大野裕，神庭重信，尾崎紀夫(編著)，気分障害，医学書院，2008；182-186
16. 笠原麻里：性被害．奥山眞紀子(編著)，ケーススタディこどものこころ，日本医事新報社，2008；106-109
17. 笠原麻里：早期母子関係と心の健康．齊藤万比古(編)，子どもの心の診療シリーズ 1 子ども心の診療入門，中山書店，2008；58-63
18. 笠原麻里：子ども虐待と関連する精神医学的診断 B．小野善郎，本間博彰，齊藤万比古(編著)，子どもの心の診療シリーズ 5 子ども虐待と関連する精神障害，中山書店，2008；116-137
19. 村上靖彦：自閉症の現象学，頸草書房，2008：(単著)

#### [報告書、その他]

1. 奥山眞紀子：総括研究報告 発達障害者の新しい診断・治療法の開発に関する研究，ここ

- ろの健康科学研究事業「発達障害者の新しい診断・治療法の開発に関する研究」, 平成 20 年度総括・分担研究報告書, 2009 ; 1-10
2. 奥山真紀子: 分担研究報告 発達障害者の新しい診断・治療法の開発に関する研究, こころの健康科学研究事業「発達障害の診断の妥当性を検証し、臨床家向けガイドライン提案」, 平成 20 年度総括・分担研究報告書, 2009 ; 11-17
  3. 奥山真紀子: 総括研究報告 子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究, 子ども家庭総合研究事業「子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究」, 平成 20 年度総括・分担研究報告書, 2009 ; 1-18
  4. 藤原武男, 奥山真紀子, 舟橋敬一: 分担研究報告 患者ニーズに合った子どもの心の診療体制の在り方およびその効果判定の方法に関する研究, 子ども家庭総合研究事業「子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究」, 平成 20 年度総括・分担研究報告書, 2009 ; 1-18
  5. 藤原武男, 奥山真紀子, 永瀬裕朗, 星野崇啓: 分担研究報告 Shaken Baby Syndrome の発生機序および疫学、発見、診断、介入に関する研究, 精神・神経疾患研究委託費「発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療・予防のための実証的研究とガイドライン作成」(1), 平成 18-20 年度 総括研究報告書 ガイドライン資料, 2009 ; 75-89
  6. 中村肇, 奥山真紀子, 長嶋達也: ガイドライン編 「虐待が疑われる乳幼児頭部外傷 (Abusive head trauma in infants and young children ,AHT)」の診断・治療・予防の手引き, 精神・神経疾患研究委託費「発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療・予防のための実証的研究とガイドライン作成」(1), 平成 18-20 年度 総括研究報告書 ガイドライン資料, 2009 ; 1-48
  7. 奥山真紀子: 巻頭語 日本トラウマティック・ストレス学会誌, 2009 ; 7-1 : 1
  8. 若葉陽子: 平成 18 年度～平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「科学研究費報告書 ストレス被曝状態に対する生理的指標からみた吃音の重症化と治療的予後に関する研究」, 平成 18～19 年度研究成果報告書, 2008 ;
  9. 河合隆史, 山添花恵, 宮尾益知: 知育用具, 特願 2008-181786, 2008. 7. 11 (特許内容未公開)
  10. 水島栄, 泉真由子, 大川千尋: 「プレーセラピーの臨床エビデンス研究」-プレーセラピーによってもたらされる子どもの治療効果の業績とは何か-. 第 44 回明治安田こころの健康財団研究助成事業
  11. 笠原麻里: 分担研究報告 DV に曝されて育つ子どもの精神発達に関する研究, こころの健康科学研究事業「母親とともに家庭内暴力被害を受けた子どもに被害をおよぼす中期的影響の調査および支援プログラムの研究」, 平成 19 年度総括・分担研究報告書, 2008 ; 70-74
  12. 笠原麻里, 小泉智恵, 飯塚有紀, 各務真紀, 辻井弘美, 三井真理: 分担研究報告 軽度発達障害者の育児支援に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金 障害保健福祉総合研究事業「ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究: 支援の有

用性と適応の評価および臨床家のためのガイドライン作成」, 平成 19 年度総括・分担研究報告書, 2008 ; 67-72

#### [学会発表]

1. Kasahar M, Kato M, Izumi M, Hosogane N, Saito K: Violence toward the self among children and adolescents ; Psychosocial characteristics of suicidal behaviors in Japanese children. 18<sup>th</sup> World congress of the international association for child and adolescent psychiatry and allied professionals (IACAPAP), Istanbul, 2008. 4. 30 -5. 3,
2. Okuyama M, Izumi M, Fujiwara T, Osada Y: Influence of Abused and Domestic Violence Experience of the Mother for the Maternal Health. XV II th ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect, Hong Kong, 2008. 9.
3. Kagami M, Maruyama T, Koizumi T, Nishikawa S, Oda H, Ono M, Arase T, Nagashima T. Uchida H, Ozawa N, Yoshimura Y: Psychosocial stress and mental health status of Japanese couples with a history of repeated pregnancy loss. ASRM , San Francisco , 2008. 11
4. 西間木敦子, 笠原麻里, 生田憲正, 奥山真紀子: 低身長を来した養育家庭委託中の 6 歳女児. 第 7 回東京児童青年臨床精神医学会, 東京, 2008. 4. 19
5. 水島栄, 笠原真理, 宮尾益知, 奥山真紀子: いじめ被害児童のプレイセラピーから見えるもの. 日本トラウマティックストレス学会, 福岡, 2008. 4. 20
6. 笠原麻里: シンポジウム「子どものいじめ」いじめという現象の現状. 日本トラウマティックストレス学会, 福岡, 2008. 4. 19-20
7. 前田洋佐, 西間木敦子, 中野三津子, 宮尾益知: 高機能広汎性発達障害の思春期における問題点と病態—家族機能と社会機能との関係から— . 第 50 回日本小児神経学会, 東京, 2008. 5. 29
8. 小笠原さゆり, 宮尾益知, 中野三津子: 小児精神神経疾患におけるアリピプラゾールの有効性について. 第 50 回日本小児神経学会, 東京, 2008. 5. 29
9. 西間木敦子, 宮尾益知, 奥山真紀子: 成人期 AD/HD の実際. 第 50 回日本小児神経学会, 東京, 2008. 5. 29
10. 笠原麻里: 「女性精神医学の今日的課題」DV—子どもへの影響. 第 104 回日本精神神経学会総会シンポジウム, 東京, 2008. 5. 29-31
11. 木村育美, 宮尾益知, 久保田雅也, 小森隆司: 広汎性発達障害児における睡眠時紡錘波の出現様式と発達経過に関する検討. 第 50 回日本小児神経学会, 東京, 2008. 5. 29
12. 奥山真紀子, 長田由貴子, 星野崇啓: 子どもの心の診療システムにおける小児病院の役割. 第 99 回日本小児精神神経学会, 鳥取, 2008. 6. 14
13. 生田憲正: 愛着研究からの知見と思春期青年期臨床への応用. 日本思春期青年期精神医学会第 21 回大会シンポジウム, 北海道, 2008. 6. 21

14. 笠原麻里： 「思春期青年臨床と発達障害をめぐって」 広汎性発達障害をもつ子どもの児童期から青年期へ向けての精神発達の課題. 日本思春期青年期精神医学会第 21 回大会ワークショップ, 北海道, 2008. 6. 21-22
- 15.
16. 奥山眞紀子： 子どもの心の診療システムにおける小児総合医療施設の役割～実態調査および研修実施より～. 第 55 回日本小児保健学会, 北海道, 2008. 9. 26
17. 奥山眞紀子： いじめ介入への医療の支援～被害児・加害児の治療と和解のプロセス～. 第 55 回日本小児保健学会, 北海道, 2008. 9. 27
18. 南めぐみ, 若葉陽子, 谷村雅子, 大熊加奈子, 宮尾益知, 近喰ふじ子, 櫻井剛： 成人吃音者の発話体験. 第 53 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 広島, 2008. 10. 24
19. 奥山眞紀子： 肝移植とメンタルヘルス. 第 50 回日本先天代謝異常学会/第 7 回アジア先天代謝異常学会, 鳥取県, 2008. 11. 6
20. 生田憲正： 「摂食障害入院チーム医療」を通して～小児科医と連携する. 第 49 回日本児童青年精神医学会総会, 広島, 2008. 11. 6
21. 各務真紀, 丸山哲夫, 小泉智恵, 西川明花, 小田英之, 小野政徳, 荒瀬透, 長島隆, 内田浩, 小澤伸晃, 吉村泰典： 不育症夫婦のストレスとメンタルヘルス その実態と男女間の差について. 日本生殖医学会総会, 神戸, 2008. 11
22. 奥山眞紀子： ケアの現場からみた子どもの権利擁護. 日本子ども虐待防止学会第 14 回学術集会ひろしま大会 (全体会教育講演 3), 広島, 2008. 12. 13
23. 奥山眞紀子, 藤原武男, 永瀬裕明, 星野崇啓： 日本における 2 歳未満児の硬膜下血腫の受傷機転に関する研究. 日本子ども虐待防止学会第 14 回学術集会ひろしま大会, 広島, 2008. 12. 14
24. 前田洋佐, 西間木敦子, 小笠原さゆり, 生田憲正, 藤岡真実, 浅野房世： 複雑性トラウマが関与した特定不能型摂食障害の 12 歳女兒の入院治療～小児科病棟での植物介在療法～. 日本園芸療法学会第 1 回大会, 東京, 2008. 12. 14
25. 笠原麻里： DV 家庭に育った子どもの抑うつについて. 第 3 回こどものメンタルヘルス関連 5 医学会合同シンポジウム, 東京, 2009. 3. 28-29